This Page Is Inserted by IFW Operations and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning documents will not correct images, please do not report the images to the Image Problems Mailbox.

THIS PAGE BLANK (USPTO)

⑲ 日本国特許庁(JP)

① 特許出願公開

⑫ 公 開 特 許 公 報 (A)

昭63 - 157987

@Int.Cl.4

識別記号

庁内整理番号

匈公開 昭和63年(1988)6月30日

C 12 N 15/00 1/20 //(C 12 N C 12 R

A-8412-4B G-6760-4B

6760-4B 審査請求 未請求 発明の数 6 (全15百)

❷発明の名称

遺伝子発現系

②特 願 昭62-95024

22HH 願 昭62(1987) 4月17日

1986年4月17日40デンマーク(DK)401777/86

@発 明

ハストルプ

デンマーク国。2400 ケーベンハウン エンベー,フレデ リクスボルグバイ 10, 3. テーホー

0出 ノボ インダストリ

1:19)

デンマーク国,2880 バグスバエルト,ノボ アレ (番地

アクテイーゼルスカブ なし)

②代 理 弁理士 青木 朗 外4名 人

1. 発明の名称

遺伝子発現系

2. 特許請求の範囲

1. 発現ベクターと「トランス作用DNAセグ メント」とから成る遺伝子発現系であって、上記 発現ベクターが、1個以上の発現される遺伝子と、 パチルス(Bacilius)種からのゲノムのセグメント から成る上記「トランス作用DNAセグメント」 によって産生されるドランス作用因子に応答する 1個(以上)のシス作用調整要素とから成ること を特徴とする遺伝子発現系。

2. 「トランス作用DNAセグメント」を発現 ベクターに配置する、特許請求の範囲第1項記載 の遺伝子発現系が

3. 「トランス作用DNAセグメント」を発現 ベクターとは異なるベクター上に配置する、特許 請求の範囲第1項記載の遺伝子発現系。

4. 「トランス作用DNAセグメント」および シス作用調整要素をパチルス・スプチリス

(Bacillus subtilis) 、バチルス・プミルス (Bacillus pumilus)またはパチルス・サーキュラ ンス(Bacillus circulans)、好ましくはパチルス ・スプチリス(Bacillus subtillis) から得る、特 許請求の範囲第1項~第3項のいずれか1項記載 の遺伝子発現系。

5. 発現ベクターを有するパチルス・スプチリ スにおいて遺伝子を発現させるための遺伝子発現 系であって、上記ベクターがバチルス・スプチリ スのゲノムによって産生されるトランス作用因子 に応答する1個以上のシス作用調整要素を有する ことを特徴とする遺伝子発現系。

6. トランス作用因子をキシロースで不活性化 する、特許請求の範囲第1項~第5項の1項以上 に記載の遺伝子発現系。

7. 「トランス作用DNAセグメント」が配列 開始 12 24 36 GTGGATATCGCT CATCAAACCTTT GTCAAAAAAGTA fM D T A D O T B U J J A B A B A G T A

48 60 72
AATCAAAAGTTA TTATTAAAAGAA ATCCTTAAAAAT
N Q K L L L K · E I L K N

(1)

THIS PAGE BLANK (USPTO)

TCACCTATTICA AGAGCAAAATTA TCTGAAATGACT
SPISRAA KLSPH 120
120
132
132
144
GGATTAAATAAA TCAACTGTCTCA TCACAGGTAAAC
GLNKSTVSSQVN

ACGITAAATGAAA GAAAGTATGGTA TTTGAAAATAGGT
TLMKA BSMVFEIG
CAAAGGACAATCA AGGGGGGAAGA AGACCTGTCATG
GGSSSGGRRPVMH

228
CTTGTTTTTAAT AAAAAGGCAGGA TACTCCGTTGGA
LVFN KKA GVSVG

ATAGATGTTGGT GTGGAAAAGTATTTA AATGGCATTTTA
I DVGGVGGAAAATTTA
I DVGGVGGAAAATTTA
I DVGGVGGAACAATCGTT CTTGATCAATAC
I DLE GTIV LDQV

GAAATAGCCCTGAAA TCCCGTACGGG TTTATTTACG
CAAATGCCCCAAA TCTCCGTACGGG TTTATTTACG
CAAATGCCCCCAAA TCTCCGTACGGG TTTATTTACG

(3)

(4)

を有し、且つシス作用調節要素が配列

-35° -10'
AACTTTCTGAAAAAGATG<u>TTGAAAAAGTC</u>GAAAGGATTTTA<u>TAATATTAA</u>
(P.O.

"-35"

AAAAAACTAAAAAAAATA<u>TTGAAAATACT</u>GACGAGGTTATA<u>TAAGATGAA</u>

(P±0±)

を有する、特許請求の範囲第 6 項記載の遺伝子発 現系。

- 8. 発現される1個以上の遺伝子が非対応遺伝子である、特許請求の範囲第1~7項の1項以上に記載の遺伝子発現系。
- 9. 遺伝子生成物の産生を刺激する方法であっ て、
- (a) バチルス種のゲノムから得られ、トランス作用因子を暗号化する Гトランス作用 DNAセ グメント」を宿主に押入して
- (b) 発現される1個以上の遺伝子生成物を明 号化する1個以上の遺伝子および上記「トランス

(5)

作用DNAセグメント」から産生される上記トランス作用因子に応答する1個以上のシス作用調節 要素から成る発現ベクターを上記宿主中に挿入し、

- (c)宿主を培袰し、所望ならば
- (d) 適当な時間に、上記トランス作用因子を 不活性化する化合物を培養物に添加して、上記所 望な遺伝子生成物の産生を開始することから成る 刺激法
- 10. 「トランス作用DNAセグメント」を発現ベクター上に配置して宿主中に発現ベクターと共に弾入する、特許請求の範囲第9項の方法。
- 11. 「トランス作用セグメント」およびシス作用要素が、バチルス・スプチリス、バチルス・プミルスまたはバチルス・サーキュランス、好ましくはバチルス・スプチリスから得られる、特許請求の範囲第9項または第10項のレギャかし項に記載の方法。
- 12. パチルス・スプチリスに限ける遺伝子生成物の産生を刺激する方法であって、
 - (a)発現される遺伝子生成物を暗号化する遺

伝子およびパチルス・スプチリスのゲノムによって生成されるトランス作用因子に応答するシス作 用週節要素とから成る発現ベクターを宿主に挿入

- (b) 宿主を培養して、所望ならば
- (c) 適当な時間にトランス作用因子を不活性 化する化合物を加えて、所望名遺伝子生成物の産 生を開始することから成る刺激法。
- 13. トランス作用因子がキシロースによって不 活性化される、特許請求の範囲第9~12項の1 項以上に記載の方法。

(8)

(7)

 RTGAATGATATC GGAACCITAAAT GCATTACAAAAT L N D I G T L N A L Q N S S R V Y S

(11)

色表が キシロースにより 不治・他心こ

まれる、ベクター。

18. 「トランス作用セグメント」およびシス作用要素が、バチルス・スプチリス、バチルス・プミルスまたはバチルス・サーキュランス、好ましくはバチルス・スプチリスから得られる、特許請求の範囲第16項または第17項のいずれかし項に記載の公79-

20. トランス作用DNAセグメントか、配列 THE TOTAL ACTION A TOTAL A

または配列:

--35°
AAAAAACTAAAAAAAATA<u>TTGAAAATACT</u>GACGAGGTTATA<u>TAAGATGAA</u>
AATAAG<u>TTAGTTTGT</u>TAAAC<u>AACAAACTAA</u>T

を有する、特許請求の範囲第13項記載の方法。 15. 発現される遺伝子が非対応性遺伝子である 特許請求の範囲第9~14項の1項以上に記載の 方法。

16. 遺伝子生成物を発現するのに使用するベクターであり、1 種以上の遺伝子生成物およびバチルス種から得られるDNAセグメントによって暗号化されるトランス作用転写因子に応答する1種以上のシス作用調節要素とから成るベクター。

17. 遺伝子生成物を発現するのに使用するベクターであり、パチルス種から得られ、1種以上の遺伝子生成物を暗号化するDNAに連結している1種以上のシス作用調節要素を抑制するトランス作用転写因子を暗号化するDNAセグメントから成り、1種以上の遺伝子生成物を暗号化するDNAと1種以上のシス作用調節要素がベクターに含

(12)

(14)

588 600 612 GCATATGGAGAA AAACTATTTGGA GCTGCAAAAAAT A Y G B K L P G A A K N CACGATAACATT ATTTACGTAAGT ATCAGCACAGA 660 672 - 684
ATAGGGATCGGT GTTATTATCAAC AATCATTTATAT AGAGGAGTAAGC GGCTTCTCTGGA GAAATGGGACAT 732 744 756
ATGACAATAGAC TITAATGGTCCT AAATGCAGTIGC 792 GGAAACCGAGGA TGCTGGGAATTG TATGCTTCAGAG G N R G C R E L Y A S B AAGGCTITATTA AAATCTCTTCAG ACCAAAGAGAAA K A L L K S L Q T K E K 840 852 864
AAACTGTCCTAT CAAGATATCATA AACCTCGCCCAT 876 888 900
CTGAATGATATC GGAACCTTAAAT GCATTACAAAAT
L N D ! G T L N A L Q N TITEGRATICIAT TRAGGAATAGGC CTTACCAATATT

一般の はない はない と

CTARATACTITC AACCCACAAGCC GTAATTITAAGA AATAGCATAATI GAATCGCATCCT ATGGTTTTAAAT N S I I B S H P M V L N TCAATGAGAAGT GAAGTATCATCA AGGGTTTATTCCS N R S R V S S R V S S CAATTAGGCAAT AGCTATGAATTA TTGCCATCTICC 1092 TTAGGACAGAAT GCACCGGCATTA GGAATGTCCTCC L G Q N A P A L G M S S 1128 1140 1152 停止 ATTGTGATTGAT CATTTTCTGGAC ATGATTACAATG TAA I V I D B F L D M I T H を有し、且つシス作用調節要素が配列 --35° --10° AACTITCTGAAAAAGATC<u>TTGAAAAAGTC</u>GAAAGGATTTTA<u>TAATATTATA</u> GTCAAGTTAGTTTGTTTGATCAACAAACTAAT

または配列

AATAAG<u>TTAGTTTGTT</u>TAAAC<u>AACAAACTAA</u>T

(15)

を有する、特許請求の範囲第19項記載のベクタ

- 21. 発現される遺伝子が非対応性遺伝子である、 特許請求の範囲第16~20項の1·項以上に記載のベ
- 22. 微生物を形質転換させる特許請求の範囲第 16~21項の1項以立に記載のベクターの使用。
- 23. 特許請求の範囲第16~21項のいずれか1項 記載のベクターで形質転換した微生物。
- 24. 遺伝子生成物を産生させるための特許請求 の範囲第23項記載の微生物の使用。
- 3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、一般的には発現ベクターおよび「ト ランス作用DNAセグメント」から成る遺伝子発 現系に関し、発現ベクターが1個以上の発現され る遺伝子と上記「トランス作用DNAセグメント」 によって産生されるトランス作用因子に応答する 1個以上のシス作用因子とから成る遺伝子発現系 に関する。更に詳細には、本発明は、上記「トラ

ンス作用DNAセグメント」および上記シス作用 調節要素がパチルス種からのゲノムの1個以上の セグメントから成っている上記遺伝子発現系に関

(16)

(従来の技術)

この関与した遺伝子のオペレーターから成る DNA配列にリプレッサー分子を結合することに よって、転写相において特定の遺伝子の発現を調 節して、RNAポリメラーゼがプロモーターに結 合するのを防止し、誘導物質がリプレッサー分子 に結合することによって誘導が起こり、リプレッ サーに構造シフトが起こり、リプレッサーのオペ レーターに対する親和性を低下させる遺伝子発現 系がエシェリキア・コーリー(Eschericia coli) で公知である。

例えばラクトース・オペロンのようなかかるオ ーター-リプレッサー制御系は、多年に亙っ てエシェリキア・コーリー(E.coli)において外来 遺伝子を発現させるのに使用されてきた。

(18)

止されてきた。

近年になって、多くの理由からバチルス属、具体的にはバチルス・スプチリス(Bacillus subtills)における外来遺伝子のクローニングおよび発現に関味が向けられるようになってきた。エンェリキア・コーリーとは対照体ではなく、しかも内部などは対照体ではなく、しかも内部などは対解ない。また、バチルス・スプチリスは増地にタンパクを多量に放出する分泌系を有する。その遺伝子地図は十分には工業に対しないよって、この有機体の大規模特殊についれているので、この有機体の大規模特殊についれているの情報を利用することができる。バチルス・スプチリス株の同発によって防

しかしながら、転写水準で作用するバチルス属でこれまでに知られている遺伝子発現系は誘導によって調節されず、異なる機構を用いている。これらの有機体の遺伝子調節はRNAポリメラーゼに結合しRNA開始の認識部位を決定する 8 因子

によって制御される。かかる系は外来遺伝子の制 御された発現には容易に用いることができない。

パチルス・スプチリスにおいて外来遺伝子を発現させる試みは、今日まで α -アミラーゼが誘導される分泌ベクターを使用することに集中してきた [palva ら、Gene、22(1983)、229 ~ 235 頁; Ulwanen ら、J. Bacteriol. 、162(1985) 、176 ~ 182 頁;およびMeyer とFiechter、Environ. Microbiot、50(1985)、503 ~ 507 頁]。

(発明が解決しようとする問題点)

遺伝子をクローニングした有機体の一般的問題点は、外来または異常タンパクの発現が低いことである。遺伝子の発現は、細胞生理を決定する環境条件によって変わる。多くの場合に、生成物形成の最適培養条件は最適成長条件とは同一ではなく、ある場合には、外来遺伝子生成物は宿主有機体に対して有毒となることもある。

上記パチルスにおいて外来遺伝子を発現させる 試みから得られた結果は、転写水準で転写が行わ

(19)

(20)

れるかまたは外来遺伝子生成物がパチルス・スプチリスに由来する外酵素からのタンパク分解作用によって分解することを示した。それ故、これらの試みにおける外来タンパクの収量は、大幅に変動するものであった。

エシェリキア・コーリーにおいては、この問題 点は上述のような誘導オペレーター - リプレッサ - 発現系を用いることによって軽減された。

バチルス・スプチリスにおいてエシェリキア・コーリーからのラクトースリプレッサーーオペレーターを用いることはYansura とBennerによって報告されている(Proc. Natl. Acad. Sci. USA、81(1984)439 ~443 頁)。しかしながら、この解決法はラクトースオペレーターーリプレッサー系がバチルス属に由来するものでないという欠陥を有する。

多年に 互り、 バチルス属に置ける多数の酵素の 産生 / 生成が成長媒質におけるキシロースおよび その他の糖によって誘導することができることが 知られているが、この現象の機構は解明されない ままであった。キシロースによって誘導される酵素は、I.G. Roncero(J. Bacteriol. 156 (1983)、257 \sim 263 頁) によって記載されているようなキシラン利用を必要とする酵素である。

多年に亙り、このキシロース誘導は、好適な発育相が培養によって得られたとき、すなわち対数 発育相が停止して培養が一定の成熟に達したとき にのみ起こることも知られている。

キシラナーゼを産生する構造遺伝子は、クローン化して、エシェリキア・コーリーおよびパチルス・スプチリスにおけるキシラナーゼの発現に用いられてきた(特公昭第75286 - A 号および第198978 - A 号)。

(問題点を解決するための手段、発明の作用および効果)

聚くべきことには、バチルス・スプチリスにおいてキシラン消化酵素の産生を誘導する機構はオペレーター・リプレッサー型のものであることを見出だした。

(21)

更に、包含された遺伝子を単離して、バチルス・ スプチリスのゲノムにおける上記オペレーター-リプレッサー発現系の構造および塩基配列を決定 することが可能であった。

このことは、 更に他の糖の添加によって誘導さ れる他の酵素の産生もかかるオペレーター-リブ レッサー系によって制御されることを示唆してい

従って、本発明は、発現ベクターおよびトラン ス作用DNAセグメントから成る新規遺伝子発現 系であって、発現ベクターが1個以上の発現され る遺伝子および1個以上のシス作用調節要素であ って上記「トランス作用DNAセグメント」によ って産生されるトランス作用因子に応答する要素 から成り、上記「トランス作用DNAセグメント」 およびシス作用調節要素はパチルス種のゲノムか ら得られることを特徴とする新規遺伝子発現系を 提供する。

第二の観点において、本発明は遺伝子生成物の 産生を刺激する方法であって、

(a)...パチルス種のゲノムから得られ、...トラン ス作用因子を暗号化する「トランス作用DNAセ グメント」を宿主に押入して

(b) 発現される1個以上の遺伝子生成物を暗 号化する1個以上の遺伝子および上記「トランス 作用DNAセグメント」から産生される上記トラ ンス作用因子に応答する1個以上のシス作用調節 要素から成る発現ベクターを上記宿主中に挿入し、

(c)宿主を培養し、所望ならば

(d) 宿主の数が所望な水準に達した適当な時 間に、上記トランス作用因子を不活性化する化合 物を培養物に添加して、上記シス作用調節要素を 抑制解除することによって、1種以上の上記所望 な遺伝子生成物の産生を開始することから成る刺 激法を提供する。

第三の観点では本発明は、遺伝子生成物を発現 するのに用いるベクターであって、1種以上の遺 伝子生成物を暗号化するDNAおよびバチルス種 から得られ且つベクターに包含される D N A セグ メントによって暗号化されるトランス作用転写因

(24)

(23)

子に応答する 1 機以上のシス作用調節嬰素から成 るベクターを提供する。

第四の観点では、本発明は、遺伝子生成物を発 現するのに使用するベクターであって、バチルス 種から得られ且つ1種以上の遺伝子生成物を暗号 化するDNAに カップリングしている 1 種以上の シス作用调節要素を抑制するトランス作用転写因 子を暗号化する DNAセグメントから成るベクタ ーであって、1 種以上の遺伝子生成物およびを暗 号化するDNA および1様以上のシス作用調節要 素が包含されるものを提供する。

第五の観点では、本発明は、上記第三または第 四の観点による ベクターで形質転換された新規欲 生物を提供する。

第六の観点では、本発明は、本発明の新規遺伝 子発現系を用い て形質転換された微生物の魔生法 およびかかる形質転換された微生物を用いて基の 欲生物に対して 非対応性の遺伝子生成物の産生法 を提供する。

本発明を図面 について以下に更に詳細に説明す

上述のように、本発明は、第一の観点では、発 現ベクターおよびトランス作用DNAセグメント から成る新規遺伝子発現系であって、発現ベクタ - が1個以上の発現される遺伝子および1個以上 のシス作用調節要素であって上記「トランス作用 DNAセグメント」によって産生されるトランス 作用因子に応答する要素から成り、上記「トラン ス作用DNAセグメント」およびシス作用調節要 素はパチルス種のケノムから得られることを特徴 とする新規遺伝子発現系に関する。

一つの系はバチルス・スプチリスから生じ、そ の本来の状態では2種のシス作用調節要素(プロ モーター-オペレーター)であってそれぞれ2個 の遺伝子の転写を調節するものと2個のプロモー ターーオペレーターが応答するトランス作用因子 (リプレッサー遺伝子) を暗号化する一つのDN Aセグメントとから成る。

この系はパチルス・スプチリスのキシロースお よびキシロースーポリマーでの成長に必要な酵素

(26)

の産生を調節し、リプレッサー分子は媒質中にお けるキシロースの存在によって抑制解除される。

しかしながら、発育相の調節のために、対数増 強期が完了して通当な数に達した後にのみ誘導が 起こるので、成長媒質から誘導物質分子 (キシロ ース)を除く必要はない。

これによって、系がバチルスを形質転換するの に用いられるときには自動調節することができ、 キシロースは初期の発育媒質に含まれる。

系の解明において、驚くべきことには、リプレッサー遺伝子が2種の調節されるオペロンの間に配置され、転写は2個のオペロンの転写の反対方向であることを見出だした。

本発明の目的に系を用いるには、少なくとも一 つのプロモーターに関して唯一つの遺伝子を除け ば、上記要素を総て用いる必要はない。

本発明の系の一つの態様はこのように遺伝子発 現系を意図するものであり、発現ベクターは上記 トランス作用因子に応答する一つのシス作用調節 要素から成っている。

(27)

向に転写されても、転写の方向がどちらであって もリプレッサーが作用することが見出だされた。

この系は、エシェリキア・コーリーのような他の属の微生物においても作用し、その場合にのみ関連する微生物に由来するプロモーターをバチルスオペレーターの前に挿入しなければならないことも見出だされた。

上記のように、キシロースで誘導されるバチルス・スプチリスからの本発明の遺伝子発現系の構造および塩基配列が決定され、従ってリプレッサーを暗号化する遺伝子xylRは以下の塩基配列

バチルスでは、リプレッサー遺伝子が既に存在 しており、従ってバチルスを形質転換するのに用 いられるベクターにリプレッサー遺伝子を挿入す る必要はない。

もう一つの態様では、本発明は上記トランス作用因子に応答する 2種の異なるシス作用調節要素から成る発現ベクターを用いることによって少なくとも 2種の異なる非対応遺伝子生成物を同時に産生することができる。

バチルス・スプチリス以外の微生物においてこの系を使用するには、「トランス作用 DNA セグメント」を発現ベクターに配置することが必要ではないが期待される。

バチルスを形質転換することによって得られる 結果はリプレッサー遺伝子を含む発現ベクターを 用いるときに優れているので、この有機体は実際 にはリプレッサーを暗号化する数個の遺伝子を有 することも見出だされた。

多数の実験において、本来の系におけるリプレッサー遺伝子は 2 個のオペロンの転写と反対の方

(28)

ATTGACTTAAAA TCTTCGATACAA GAGAAGTACAAT CTCTCTCTTTTT ATTGAAAATGAG GCAAAATGCTGGC 588 600 612
GCATATGGAGAA AAACTATTTGGA GCTGCAAAAAAT
A Y G B L F G A A Y CACGATAACATT ATTTACGTAAGT ATCAGCACAGGA ATAGGGATCGGT GTTATTATCAAC AATCATTTATAT AGAGGAGTAAGC GGCTTCTCTGGA GAAATGGGACAT R G V S G F S G E M G H 732 ATGACAATAGAC TITAATGGTCCT AAATGCAGTTGC M T I D F N G P K C S C 768 780 792
GGAAACCGAGGA TGCTGGGAATTG TATGCTTCAGAG
G N R G C K E L Y A S R AAGGCTTTATTA AAATCTCTTCAG ACCAAAGAGAAAA K A L L K S L Q T K E K AAACTGTCCTAT CAAGATATCATA AACCTCGCCCAT CTGAATGATATC GGAACCITAAAT GCATTACAAAAT TTTGGATTCTAT TTAGGAATAGGC CTTACCAATATT 948 950 972
CTARATACTITC AACCCACAAGCC GTAATITTAAGA AATAGCATAATT GAATCGCATCCT ATGGTTTTAAAT N S I I E S H P M V I N 1020 TCAATGAGAAGT GAAGTATCATCA AGGGTTTATTCC 1056 1068 1080
CAATTAGGCAAT AGCTATGAATTA TTGCCATCTTCC TTAGGACAGAAT GCACCGGCATTA GGAATGTCCTCC を有し、且つ2個のプロモーター-オペレ 配列P,0,およびP:0.は以下のようになる。 AACTTTCTGAAAAAGATGTTGAAAAAGTCGAAAGGATTTTATAATTAA (P.O.) GTCAAGTTAGTTTGTTTGATCAACAAACTAAT

(32)

(31)

および

AATAAG<u>TTAGTTTGTT</u>TAAAC<u>AACAAACTAA</u>T

(矢印はオペレーター〇, および〇, の結合邸位

キシロース上での生育に必要な遺伝子のパチル ス・スプチリスにおける転写に重要なレギュロン の構造は、次のようにして決定した。

パチルス・スプチリス株DN497 からのDNAを 制限酵素Bglii で部分的に消化して2~10kbの フラグメントを196アガロースゲルから単離した。 次に、DNAをBamHI で切断した脱ホスホリル化 したプラスミドpBR322(New England Biolabs社製) で連結した後、エシェリキア・コーリーMC1000rm に形質変換した。選択はアンピッリンプレート上 で行い、形質転換体を2mMの4ーメチルーウン ベレフェリルー 一D-キシロシドと共に噴霧し t: .

酵素1.4- -D-キシロシダーゼを暗号化 するxyn8遺伝子を抵持するコロニーを、基剤の加 水分解により紫外線に暴露したときに螢光体とし

遺伝子xynBは8.4kbフラグメント上に見出ださ れ、更に精確に印され且つ配列された。その遺伝 子は、第一の遺伝子(xynC)が長く伸びた疎水性ア ミノ酸を有するタンパクを暗号化する2個のシス トロン性オペロンにおける最後の遺伝子であるこ

エシェリキア・コーリーでは、xynBの転写は部 分的にはxyaCから生じ、部分的にはプラスミドブ ロモーターから生じることが示された。pDN1050 にクローン化してパチルス・スプチリスDN497 に 形質転換した時、強い転写がxynCの上流の320 bp Mspl-Bgliiフラグメントから起こる。

xynCの下流のDNAは、キシロースが不在であ るときにのみこの転写を抑制することを見出だし た。これは、最初のクローン上に抑制遺伝子 (xylik)が存在したことを示唆した。SDS-ペ-

(34)

ジゲル電気泳動法はクローン化したDNAはxynBと同様に調節されるが、それ自体のプロモーターから転写されるもう一つの遺伝子を含んでいることを示した。これは、酵素キシロースイソメラーゼ(xylA)を暗号化する遺伝子であることを示された。

xylR遺伝子はxynBおよびxylAの間にあり、 DNA上のもう一つのストランドから続まれる (第1図)。この遺伝子は1152 bp の長さであり、 リプレッサーモノマーは384 個のアミノ酸から成 ることを意味する。

リプレッサーによって調節された2個のプロモーターは、GilmanとChamberlain とによって記載された酵素S1によって印された(Cell、35、285~93頁)。

キシロースレグロンの構造は、レギュロンの制限地図をも含んでいる第1図に示され、転写の方向は矢印で示している。

以下杂白

(実施例)

以下の実施例では、プロモーター・オペレーターP101およびP202およびリプレッサー遺伝子xylRを各種微生物を形質伝換するのに用いた多数のベクターを構成するのに用いて、本発明の遺伝子発現系の作用性を説明した。これらの実施例は、本発明を制限することを意図するものではない。

また、上記説明および以下の実施例においては、 以下にまとめた多数の微生物を用いた。 方法

プラスミドおよびクロモゾームDNAの調製およびパチルス・スプチリスおよびエシェリキア・コーリーの形質転換は、以下の一般的処理法に従って行った。制限酵素を用いる消化、Bal 31ヌクレアーゼ処理、オリゴーDNA-リンカーの挿入およびDNAのT4-リガーゼとの連結は、New England Biolabs 社製の酵素を用いて、同社によって指示された条件で行った。

総てのパチルス・スプチリス株は、パチルス・

(35)

(36)

スプチリス168 の誘導体であった(Splzizen 、 Proc. Natl. Acad. Sci.44、1072~78頁、1958) . RUB200: aro1906 、anyuEO7 およびamyR2 は、 Dr. Frank Young 、ロチェスター大学、ニュヨー クから得た。 SL438: trpC2 (胞子形成およびプロ テアーゼ欠損)はOr. Kim Hardy 、Biogen、ジュ ネーブから得た。DN497: amyEO7 およびamyR2 は SL438 からのクロモゾーム DNAによるRUB200の aro+形質転換体であり、QB1133:aro1906、metB5、 sacA321 、amyEはDr. Georges Rapport 、IRBM、 パリから得た。QB1130: dal 、wetB5 、sacA331 およびamyEはBacillus Genetic StockCenter、コ ロンパス、オハイオから得た。DN608:dal-1 、 metB、sacAおよびamyEはQ81130からのクロモゾー ムDNAによるQBI133のaro+およびdal-1 形質転 換体であった。

SHa28、metB 、 sacA 、aryEおよびxynBは、DN497 からのクロモゾームDNAによるDN608 へのコングレッションによって作り、xynBにおいて4bpを欠失している(崩壊したPsti部位)。

SHa165: DN497 のプロテアーゼ弱ニトロソグアニジン変異株。

エシェリキア・コーリー(E. coli): MC1000:

P-lacX74 galF 、galK、(leu-ara)7697(Casa-blaban, M.J.およびCohen, S.N.(1980) 、J. Mol. Biol. 7697、138 、179 ~207 頁)。この関株は通常の方法でr-w+とした。

ブラスミド

南株

エシェリキア・コーリー

pBR322: Sutcliffe, J.G. (1979) Cold Spring Harbor Symp. Wuant. Biol. 、<u>43</u>、77~90頁)。 パチルス・スプチリス

pDM 1050: デンマーク特許出願第5940/84 号明細な.

1.パチルス・スプチリスの転写

Yasbinらの方法にしたがって競合バチルス・スプチリス細胞を調製した(J. Bacteriol. 121:296~304 頁、1975) 。細胞を、次に遠心分離 (7000rpm、3分間) によって回収して、20%グリコールを含む上流の10分の1容量に再分散して、

(37)

(38)

I. エシェリキア・コーリーの形質転換

State of the state

エシェリキア・コーリーK-12株802 号を LB (水1リットル当たり10gのバクト・トリ プトン、5gのバクト酵母抽出液および10gの NaC 2、pH 7.0) 中で一晩培養したものを、500 m 2 LBで100 倍に希釈し、37℃で450 mμで の吸光度が0.4になるまで生育させた。培養物を 冷却させ、15分間水上に放置し、15分間3000 rpm (Sorvali GS3 ローター) で遠心分離し、200 m 2 の冷たい0.1 Mの CaC 2 に に 再分散し、 氷上 で20分間放置し、10分間3000rpm で遠心分離

(39)

ーで約 45000 g) で 2 0 分間遠心分離した。上澄液を 0.6 容の命イソプロパノールを用いて沈澱して、1.2 m² の 5 TE (0.05 Mのトリス・HC ℓ 、 pH = 8.0、0.005 MのEDTA) と 2 0 μ² の沸酸 R N アーゼA (Boehringer) (2 m g / m ℓ) とに再分散した。 3 0 分後に、溶液をVTi65 チューブ中の 4.0 m ℓ 緩衝液 4 (8 0 g CsCℓ および 5 6 m ℓ の 5 TE) と 0.1 m ℓ のEtBr (1 0 m g / m ℓ 臭化エチジウム) の最上部に積層した。 混合物を 45000 rpm で 2 0 時間遠心分離した。 プラスミドを、次にチューブから除いて、透析して、第 VI 坦で記載のように 抽出した。

N. バチルス・スプチリスからのプラスミドの調 製

プラスミドは、以下の修正を行ったことを除いて、エシェリキア・コーリー株で説明した通りに 調製した。生育は、0.01Mのリン酸カリウム、H = 7.0 および適当な抗生物質(例えば、6 μ g / m g / ロラムフェニコール)および所望ならば 100 μ g / m g の D - アラニンを含む L G 中で行 し、5 m & の冷たい 0.1 M の CaC & 。 に再分散し、 氷上に 2 0 時間放置した。次に、冷たいグリコー ルを 1 0 %になるまで加え、一部を液体窒素中で 凍結させ、 - 7 0 でで保存した。 凍結した細胞を 氷上で融解させ、 D N A を加え、 混合物を氷上で 4 5 分間、 3 7 でで 2 分間インキュベーションし て、次いで適当な選択媒質上に採取した。

エシェリキア・コーリーからプラスミドの調製

エシェリキア・コーリーを250 m & L B 、 0.4 % グルコースおよび適当な抗生物質中で一晩生育させた。細胞を遠心分離によって回収して、 4 m & の緩衝液 1 (0.025 M トリス・RC & 、pB = 8.0 、 0、0.01 M のBDTA、0.05 M のグルコース、 2 m 8 /m & のリゾチーム)に最分散した。分散液を 0 でで15分間インキュペーションした後、 8 m & の緩衝液 2 (0.2 M のNaOR、 1 % S D S) と混合した。次いで、 6 m & の緩衝液 3 (3 M 酢酸ナトリウム、pH = 4.8) を加え、混合物を 0 でで60分間保持した後、19000 rpm (Sorval1 SS34 ロータ

(40)

った。回収した後、細胞をリゾチームと共に37 ででインキュペーションした。緩衝液2を1容の 緩衝液2および3容の緩衝液5 (0.2 Mのグリシ ン、0.2 Mの NaC& および1%SDS) との混合 物によって環換した。以下の工程は、皿と同じで あった。

V. バチルス・スプチリスからプラスミトの小規 模調製

(0.01 Mのリン酸塩、pH = 7.0 および適当な抗生物質および所望ならばローアラニンを含む) L B 中の 5 m ℓ パチルス・スプチリスからのプラスミドを、1. 根街液の容量を 4 分の 1 に減少させ、2. 根街液 3 の後に 0.5 m ℓ フェノールおよび 0.5 m ℓ のクロロホルムを加え、3. 19000 rp = で遠心分離した後、上澄液をエタノールで沈澱させ、400 μ ℓ の級街液 6 (0.05 M のトリス・HCℓ、pH = 8.0、0.1 M 酢酸ナトリウム)に 再分散させ、プラスミドを再度沈澱させ、 400 μ ℓ の級街液 6 に再分散させ、沈浄して、100 μ ℓ のTE (0.01 M トリス・HCℓ、pH = 8.0、0.001

(42)

MのBDTA) 中に1μg/mg の沸騰RNアーゼA (Boehringer)と共に再分散した。

VT. バチルス・スプチリスからクロモゾームDN

<u>Aの調製</u>

約50 m & の培地から凍結した細胞のペレットを1.1 m & の経街液 (0.05 M のトリス・HC & 、pH = 7.4 、 0.1 M の NaC & 、25 % スクロース) 中に再分散した。100 μ & のリゾチーム (25 m 8 / m &) および150 μ & のEDTA (0.5 M 、pH = 8.0) を加えた。混合物を37 でで30分間インキュペーションした。2 m & の0.2 % SDSを加えた後、30分間37 ででインキュペーションした。1 g の CaC & と0.05 m & BtBr (10 m g / m &) を0.95 m & の混合物に対して加え、混合物を15 でで20時間VTi65 ローター(Beckman) 中で45000 rpmで遠心分離した。

DNAを長波長紫外線ランプの下に配置して、 シリンジでチューブに孔を開けて採取した。BtBr をイソプロパノールで抽出し、溶液をTBB (0.01 Mのトリス・HC&、pH=8.0、0.01Mの

(43)

P,O;、Sallフラグメントに対する 2.5 kbClal上の パチルス・プミルスxylR遺伝子およびxylRが開始 前134bp から祖の低死後 8 2 bpまでSphlフラグメ ントに対して1380bp BamHI上でのパチルス・スプ チリスxylR遺伝子から成る。総て、プラスミド pDN1050(2.5 kb) に押入した。

pSX- 56

第3図は、もう一つの基本ベクターpSX 56の対応する制限地図を示す。図に示されるように、パチルス・スプチリスxylR遺伝子およびxylRが開始する前 215bpからその停止後 8 2 bpまでCialに対して1475bpのEcoRI 上でのプロモーターーオペレーター P_*O_* およびpSX 50におけると同様のxynB遺伝子から成る。また、総て、プラスミドpDN1050 (2.65kb)に挿入した。

これらの 2 個のプラスミドのいずれかを用いて 形質転換したパチルス・スプチリスSHa 28 (xynB⁻) はキシロースなしで生育させたものと比較して 0.2 %キシロース上で生育させたとき、 p - ニト ロフェニル-β-D-キシロピラノシド(Sigma) BDTA) に対して 2 時間透析した。次に、溶液を TBEで 8 m & に調製してフェノールで 2 回抽出 し、クロロホルムで 1 回抽出した。 DNA を 0.1 Mの NaC & と冷エタノールで沈澱させ、 1 m & TB (0.01 Mのトリス・HC & 、pH = 8.0 、0.001 MのBDTA) に溶解した。クロモゾーム DNA を 4 でに保持した。

(実施例)

<u> 実施例1および2</u>

pSX 50

本発明による2個の基本的遺伝子発現系を構成 して、xylRからの調節によってPiOiおよびPiOiに よってクローン化させ、発現させることができた。

pSX 56

第2図には、以下の実施例に用いられる基本ベクターの一つであるpSX 50の制限地図が示してある。図に示されるように、この制限地図は、(Clai に変換された) Bgili フラグメントに対する 322Mspi 上のプロモーターーオペレーター

(44)

の加水分解によって測定されるキシロシダーゼ活性の因子が150~200にまで増加することを示す。この試験の結果を第4A図に示し、ハッチした部分はキシロース(+)を用いて生育させた細胞からの細胞内液体のキシロシダーゼの含量を示し、となりの空白の部分はキシロースなしで(-)生育させた細胞からの細胞内液体にキシロシダーゼが不在であることを示している。

実施例3

pSX 50上のxynBのClaI-Bawl フラグメントを、 細胞外アルカリ性プロテアーゼ・スプチリシン・ カールスパーグ(extracellular alkaline protease subtilisin Carlsberg) を暗号化するパチルス・ リケニホルミス(Bacillus licheniformis) から のapr遺伝子で置換して、プラスミドpSX 55を 得た(第5 関)。

第4B図は、キシロースを用いておよび用いず に生育させたこのプラスミドで形質転換した SHa 28の上澄液を示す。キシロースがない場合に は、スプチリシンパンドは見られず、0.28%キシ 法的一种问题 动物螺旋

ロースの存在で細胞を生育させたときには、スプ チリシンが主要なパンドである。

実施例 4 および 5

pSX 52およびpSX 59

仔牛のプロキモシン遺伝子をキシロシダーゼからの最初の i 2 個のアミノ酸から成りプロキモシンに続いている融合タンパクを暗号化する遺伝子を生成するパチルス・ブミルスxyn8遺伝子に融合

この融合体をpSX 50およびpSX 56上でClaI-Hind II 中にクローン化して、プラスミドpSX 52お よびpSX 59 (第 6 および 7 図) を得た。

これらのプラスミドを用いて、パチルス・スプチリスSHa 16530(DN197(プロテアーゼ (・) (ニトロソグアニジン))) を形質転換させた。

第4 C 図の細 腹内液体のウェスタンブロットである最初の 4 個の帯はプロキモシン遺伝子がキシロースによって 制御されていることを示している。 以下介白

(47)

第2図は、本発明にのベクターpSX 50の構造を

第3図は、本発明によるもう一つのプラスミド pSX 56の構造を示し、

第4A.BおよびC図は、10%SDS-PAGE本発 明のベクターで形質転換した微生物からの細胞内 液体および上澄液のウェスタン・ブロットからの 結果を示し、

第5.6.7および8図は、それぞれ更に別の 4個の本発明のベクターの構造を示す。

特許出顧人

ノボ インダストリ アクティーゼルスカブ 特許出願代理人

弁理士 青 木 朗

弁理士 西 舘 和 之

弁理士 石 田 敬

弁理士 山 口 昭 之

弁理士 西 山 雅 也

実施例 6

pSC 62

エシェリキア・コーリーrrnBターミネーターを プロキモシン遺伝子の後のpSX 52中でクローン化 してプラスミドpSX 62 (第8図) を得て、SHa 165 を形質転換するのに用いた。第4 C 図の帯 5 および 6 はこのプラスミドがプロキモシンの量を署し く増加させることを示す。総タンパクの約40%). 実施例 7

pSX 71

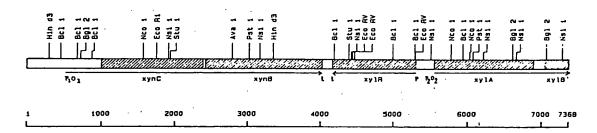
pSX 62におけるxylR遺伝子における第一および 第三のEcoRV 部位の間の820bp の欠失を行い、プ ラスミドpSX 71であってxylR遺伝子が破壊された プラスミドを得た。このプラスミドを用いて SHa 165 を形質転換した。第4C図の帯 7 および 8 は明らかに、プロキモシンの産生が最早キシロ ースによって制御されないことを示している。

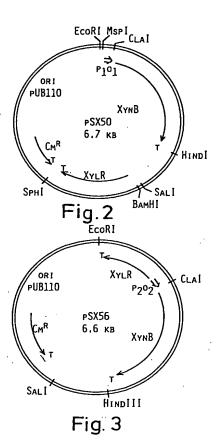
4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明の遺伝子発現系から成るキシロースレギュロンの制限地図を示し、

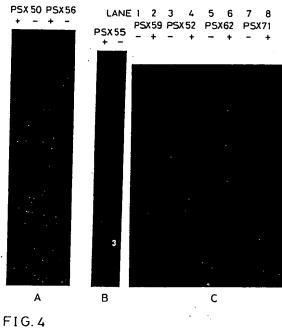
(48)



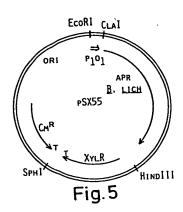


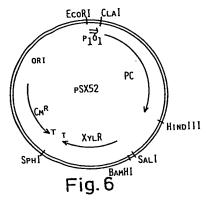


図面の作者(内容に変更なし)



-: キシロ-スなしでの生育を示す +: キンロースを用いての生育を示す





手 統 補 正 掛 (方式)

昭和 6 2 年 年月 20 日

特許庁長官 小 川 邦 夫 殿

- 事件の表示
 昭和62年特許願第095024号
- 発明の名称
 遺伝子発現系
- 3. 補正をする者 事件との関係

特許出願人

名称 ノボ インダストリ アクティーゼルスカブ



- 4. 代 理 人
 - 住所 〒105 東京都港区虎ノ門一丁目8番10号 静光虎ノ門ビル 電話 504-0721 大奈邦 氏名 弁理士 (6579) 青 木 朗 (75年) 田組士
- 5. 補正命令の日付 昭和62年6月30日 (発送日)

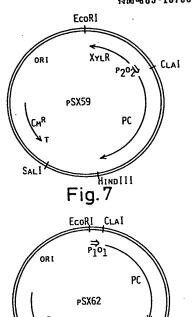


Fig. 8

- 6. 補正の対象
 - (1) 明細書の「図面の簡単な説明」の欄
 - (2) 図面(第4図)

EcoRV

- 7. 補正の内容
 - (1) 明細哲第49頁第8行、「示し」を『を示した図面に代わる写真であり、』と補正する。
 - (2) 図面の浄書 (第4図)(内容に変更なし)
- 8. 添付書類の目録

净雪园面 (第4図) 上中書 /通/通

(2)